

ウクライナでの戦争終結を求める声明

日本キリスト教団 京都教区 常置委員会

総会議長 今井牧夫

2022年2月24日にロシアがウクライナに軍事侵攻して以来、ウクライナ各地で民間・軍人を問わず両国の無数の人命が奪われ、それまでに築き上げられてきた市民の生活が無残に破壊され続けています。数百万人の避難民が故郷を追われ各国へ流入しており、事態は日々深刻化しています。原子力発電所への攻撃や、核兵器による威嚇は、全世界の破滅へと向かう地球規模の危機です。そうして世界がそれまでとは形を大きく変えてしまったかのような、巨大な衝撃を世界の多くの人々が受けています。

この残虐非道な戦争を開始したロシア政府・指導者に対して強く抗議します。侵攻した軍隊を直ちに撤収し、戦争を速やかに終結する責任を、今すぐ果たしてください。

いま国際社会において、多くの国や地域などの様々な人々が、互いの立場の違いを越えて、ウクライナの状況を変えていくために声を上げています。ロシア国内でも、戦争に反対の声を上げて政府から弾圧されている多くの方々がいます。ロシア政府・指導者は直ちに国内での弾圧をやめ、戦争に反対する国内外の声を聞いてください。その中でウクライナの人々の悲痛な状況を認識し、同国と真摯に対話して直ちに戦争を終結しなければなりません。

戦争は、人間の命を含めてあらゆるものを奪い、破壊し、深い傷を人間の心身に残します。戦争は社会の中で弱い立場の人々を、さらに苦しい立場へと追いやります。女性、子ども、障がい者、外国人、性的少数者、貧困者など、被差別者・社会的少数者を一層苦しめます。戦争にいかなる理由・背景があっても、そのために起きる悲惨な状況は決して正当化されないゆえに、あらゆる戦争、軍事支配に反対します。

私たちの京都教区が属する日本基督教団は、1967年に「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」を公にし、かつての日本のアジアなどへの侵略戦争・植民地支配に加担したことを悔い改めました。その反省に立つとき、ロシア政府・指導者が始めた、ウクライナにおける侵略戦争を容認することは決してできません。ロシア政府・指導者がこの戦争を速やかに終結することを強く求めます。

以上